

臨床研究の名称	びまん性肺疾患の診断に対する気管支鏡下クライオバイオプシーによる有用性の臨床学的後方視的検討
研究責任者の所属・氏名	呼吸器内科 医師 山川 英晃
研究の概要	<p><b>【目的】</b>                  間質性肺炎や細気管支炎といったびまん性肺疾患の確定診断のために、気管支鏡や手術による肺の生検がおこなわれています。しかし通常の気管支鏡下肺生検で使用されている鉗子で採取できる検体は小さく、確定診断が困難なことが多く、外科的肺生検は大きいサイズの検体が採取できるため診断能が上がりますが手術のため1週間前後の入院が必要であり緊急での施行は困難なことも多いです。また患者様の精神的負担も大きいものです。クライオバイオプシーは通常の鉗子と同様に従来の内視鏡検査室で施行可能で緊急に施行も可能であり外科的肺生検に比べれば小さいですが従来鉗子による生検に比べ大きな組織が得られます。そのため診断能も上昇し確定診断に至る例も少なくありません。2017年本邦でも保険適用が決まり当院でも2018年より気管支鏡下クライオバイオプシーを実施しています。そのため当院でのびまん性肺疾患患者様における診断の有用性を探索することを目的に後方視的に検討します。</p> <p><b>【対象患者】</b>                  当院において2018年1月から2019年3月までに気管支鏡下クライオバイオプシーを施行したびまん性肺疾患の患者様。</p> <p><b>【方法】</b>                  びまん性肺疾患の臨床情報・画像所見・臨床経過に加え、気管支鏡下クライオバイオプシーで得られた肺組織を詳細に検討し、適切な解析手法により検討します。</p> <p><b>【使用する情報】</b>                  年齢・性別・検査結果（血液・呼吸機能・画像・病理）</p> <p><b>【個人情報の取り扱い】</b>                  本研究で取り扱うすべての臨床情報は名前や住所など患者様個人を特定できる情報を除き、院外へ持ち出すことはなく管理するため情報が外に漏れることはありません。また研究結果を学会や論文などで報告する場合も、報告内容に個人を特定できる情報は一切含みません。もし患者様より情報提供を拒否する申し出があった場合は速やかに研究利用対象からはずさせていただきます。ただし研究結果を報告した後の申し出については対応しかねる場合があります。</p>
問い合わせ先	呼吸器内科 医師 山川 英晃 〒330-8553 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地5 さいたま赤十字病院 電話番号 048-852-1111 (代表)